

## インターバンクの声（2015年8月7日）

ドルの主要通貨に対する小幅な値下がりには、米雇用統計の発表が控えていることから想定済みだったが、気になったのはニューヨーク株価の値下がり具合だ。翌日の雇用統計と、その延長上にある利上げに対する警戒感が増しているのが背景だろうが、昨日はメディア大手各社や次世代系企業の決算が冴えなかったことが大きく響いていたようだ。米連邦準備制度理事会（FRB）は、金融政策の変更には雇用を含めた各種経済指標の進捗度合いを見極めるとしているが、これだけ企業決算や株価全体に元気のなさが目立ってくると9月の利上げ開始説を本命視して良いのか不安にもなってくる。日本勢からすれば、125円を大きく超えるような円安には米国側がそろそろ牽制する動きがあるとの懸念が度々出てくるが、どうも米国が最も気にしているのが、隣国カナダドルに対するドル上昇にあるようだ。米国にとっての最大の貿易相手国の通貨変動が思わぬタイミングで利上げに対する障害にもなっているようだ。市場が予想する以上の非農業部門雇用者数の増加となれば波乱のない相場になりそうだが、予想以下の結果となれば株価、長期債利回りなどにも思い掛けない反応が出るかも知れない。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。